

みんなの居場所

裏面の話題

みんなの居場所の裏面は、小学生にとって必要ではないかと思う問題、漢字、語、慣用句等々を載せていきます。ご家族の団らんの話題にしてみてください。会話が広がります。

令和8年1月9日(金)

「継続」教子からの伝言

教子の中に陸上選手がいます。もう引退しましたが、箱根駅伝、ニユーイー駅伝にも参加したことがある選手です。

引退後も所属先の、福岡安川電機に勤務しており、以前の勤務校で講話をしてくれたことを思い出します。その時のお話の内容を少しまとめてみました。

- 小・中学生に望む大切なこと
- ①挨拶は基本中の基本！
 - ②ルールを守ること
 - ③時間を大切にすること
 - ④目標を明確に持つこと
 - ⑤友達、先生、家族を大切にすること
- 私が学んできたこと
- ①続けることの大切さ
 - ②忍耐力
 - ③明るく、素直、謙虚、感謝
 - ④新しい事に挑戦すること

お話の中で特に力を入れて説明をされたのが「挨拶は基本中の基本」と「ルールを守ること」の二点でした。当時、本人は一流選手でありながら、挨拶やルールを守ることは一流選手である前に、人として必要なことだと言っています。そして、結果を出すために努力を続けることが大切だということも伝えていました。そのために時間の使い方を工夫していくことが重要だとも言っています。1日24時間しかありませんので、睡眠を8時間、学校時間が8時間、残りは8時間ですね。この8時間をどう使うか？子ども達に生活をコントロールするためのヒントにしてもらいたいと思います。

卒業前継続「中学校とは」

「友人と自分」

思春期の入り口に立っている子ども達という話をしましたが、中学校では自我意識の芽生えによって、友人との付き合い方も変わります。友人関係は子ども達に多くの経験を与え、更なる成長をもたらします。しかし、その成長を傍から見ていく「自分」を伴っていることが分かります。男女関係など、なかなか本音を出せずに苦しいたり、逆に本音を言えず仲間を見失ったり、とても楽しく学校に行くようになったり、SNSに明け暮れ、絶えずつながりを求める付き合い方が多いように思います。このように、友人関係を悲しい思いや、寂しい思いをする子どももいます。私達が中学生の頃は、「親友」という概念も少し変化があったようです。

また、自意識が強くなってくる時期でもあり、「仲間からどう見られているか」を気にすることがあります。例えば、男子が恥かしがったり悲しかったりするのがまさにそれです。聴じらうの自分と向き合っている証拠であり、あまり気にするほどではありませんが、度の過ぎる悪友等には、毅然とした態度で接することも、大人に対する礼儀や態度、尊敬の念を失わないでおく手立です。

私達も中学生の時を思い出してみると、最も大切にしていたものは自分であり友人であり、その繋がりがであり、今の中学生と変わらないもののようです。しかし、最近、友人とつながる方法が多岐にわたり、保護者としては「果たしてこれだものだろうか」と悩む場面も多いです。根本にあるものは変わらないと思うので、中学校生活での変化を、子ども達が成長していく「通過点」であるとして自己覚悟してあげれば、大人も冷静に対処できるはずです。実は私も最近、我が子の対応に苦慮しております。

シリーズ「自分を語る」#65

私は玉名町小学校に9年勤務させて頂きましたが、その間、部活動はバドミントン部担当でした。私が主に担当させて頂き始めたのは、玉名町小学校2年目からです。私が担当になったからは、基礎練習のメニューについては子ども達自身で考えさせるようにして、足りない項目についてはアドバイザーの程度で指導しました。実戦練習においてもかなりの部分を子ども達の判断に任せ、私は自分の運動不足解消のためにも子ども達と試合をしていました。

不思議なもので、私に負けやうとついていたお先生に勝たせようとするのを考え始めました。それに伴う疑問を私にぶつけてくるものもつきました。練習でものが主体的になっていった訳です。子ども達が主体的に活動し、必要に応じて指導を徹底するというスタイルが、部の中に浸透していききました。

この取り組みによって、数年後に結果が伴うようになってきました。当時出ていた大会のメインは「玉名郡市小学生バドミントン大会」です。学年オリンピック等には数名の選手が出ていましたので、実質的に対外試合はこの一つだけでした。4年目くらいからいよいよ、3位入賞がちらほら出始めました。その影響でいよいよ、入賞しなかった子ども達も「今度こそ」の気持ちで湧いてきて、これまで以上に頑張るようになってきたのです。その頑張りに保護者の皆様も応え、クラブチームに所属して頑張る子ども達も出てきました。そうなると部活にも良い影響が出て、クラブチーム所属の子ども達も後輩や友達に対して、スキルを教えるようになったのです。その頃から都市大会では多くの入賞者を出すようになっていきました。

玉名町小6年目だったと思います。この年初めて6年生男子ダブルス1ペアが九州大会（大分大会）に出場することになりました。翌年、同じく6年生男子ダブルス1ペアが九州大会（長崎大会）に出場しました。その翌年、6年生女子ダブルス1ペアが九州大会（鹿児島大会）に出場しました。この大会を監督として付いていきましたが、保護者との良いコミュニケーションの場だったと思います。

部活動で結果が出始め、あわよくば入賞を入れて挑んだのが、平成16年度の熊本県選手権大会です。シングルもダブルスも入賞の可能性がありました。九州大会への切符も目の前だ感じていました。しかし、結果は思わぬ方向へと動きまわりました。早い段階で敗退してしまい、九州大会までではありませんでした。明らかに気の緩みが生じていました。何でもそうですが、気の緩みというのは、多くのことに影響します。練習に取り組み姿勢、真剣さ等々、日常生活にまで悪影響が出ていたようでした。ストイックさといいますが、目標を定めてそこに突き進む勢いが強くなっていた時期でした。因みに、この年の学年オリンピックには和木町出身でオリンピックの廣田彩花選手も出場していて、何度も試合を見て頂戴しましたが、彼女のスキルはさすがに抜けていましたね。彼女にはストイックさもあったでしょうし、目標もブレなかったでしょう。現在の活躍を見れば、何の説明もなくても、皆さんが存じの通りです。(つづ)